

第三次国立市子ども総合計画重点取組みの実施評価

重点的取組み名	所管課	総合評価
様々な子どもの体験・交流事業の推進	児童青少年課 南部地域まちづくり課 環境政策課	B

	取組み内容	評価
1.	子どもの野外体験活動の充実を推進	B
2.	子どもと地域の交流の推進	B
3.	農業体験の充実	B
4.	遊びと体験学習の場の充実	B
5.	親子で遊べる公園のPRの推進	B

令和6年度までの実績または取組の現状

子どもたちの野外体験活動の推進としてNPO法人に野外での冒険遊びの機会を委託している。この事業は週1回開催され、令和5年度は延べ3,500人の参加があった。

また、児童館では青少年キャンプを実施し野外体験の充実を図ってきた。

国立市農業委員会では、市内公立小学校8校の5年生児童を対象に「稲作体験学習会」を毎年度実施している。学校カリキュラムと連携して、児童に対して田植え(令和5年度は、台風災害により田植えは中止)・稲刈り作業や、訪問授業を通じた市内農業者との交流を提供しており、各校の恒例行事として定着している。

令和3年度(2021年度)からは、市内米農家で構成されるJA東京みどり国立地区米生産部会との協働により、新たな進路に向かう市内公立中学校3校の3年生生徒に対し、一人あたり1キログラムの谷保天神米を贈呈する「谷保天神米PR事業」が開始された。

城山さとのいえでは、通年で多種多様な農業体験イベントを開催している。平成30年度(2018年度)以降はイベント参加者全体に占める未就学児の割合が40%以上で推移しており、特に子育て世代の市民にとっては「子どもが自然や生き物、食にふれる空間」として定着していることを表している。また令和5年度(2023年度)は、城山さとのいえのイベント参加者数が1,000名(イベント実施回数:62回)を越える結果となり、子どもたちが都市部で農業(自然環境)に触れることのできる貴重な空間として機能してきたことが伺い知れる。

また、城山公園内に生息する昆虫類の観察会を実施するなど、体験学習の場として活用している。

谷保第四公園にはあらゆる子ども共に遊び、学べる公園として、検討段階から子どもの声を聴き、インクルーシブ遊具を新設、市報やHP等でリニューアルオープンのPRを行った。

課題及び改善点

体験学習の場や開催イベント、親子で遊べる公園のPR等を引き続き実施していくことで、さらなる利用者拡大を図る。

今後の方向性

継続実施

理由

今後も同様に事業を実施していく。

未就学児～小学生児童のお子さん達には、各農業施策を通じて、多様な農業体験を提供できているように感じている。一方、中学生以上になると、中々交流の機会がなく、「稲作体験学習会」のように各学校と連携して、授業カリキュラムとして農業体験を提供する取組みも必要。

体験学習の場や親子で遊べる公園のPRを引き続き実施していき、さらなる利用者拡大を図る。